

2021 年度 1 学期始業式式辞「盾としての挨拶」

2021 年 4 月 8 日

兵庫県立播磨南高等学校 校長 吉田尚美

今日から新学期が始まりました。4 月には新しい出会いがたくさんあり、挨拶をする機会が多いので、今日は「盾としての挨拶」についてお話しをします。

先ほど「気をつけ」「礼」の号令がかかり、みんなで挨拶をしました。みなさんは、挨拶やマナーはくだらないと思いませんか？

私は以前、尊敬もしていない人に頭を下げるとか、お世話になっていないのに「いつもお世話になってます」と挨拶したりするのをくだらないと思っていました。人間は、内面が大事で、うわべだけの挨拶に意味はないと考えていたのです。だから、自分の授業では、授業の最初と最後に起立、礼をしませんでした。

けれども、よく考えると、挨拶には意味があることに気がつきました。

盾としての型を身につける

私は三木北高校から着任しましたが、その前は神戸特別支援学校の校長をしていました。特別支援学校では、挨拶や礼儀、服装など、いわゆる型を繰り返し教えます。型にはめるといって、個性を尊重し伸ばすという教育と逆行するように思われます。しかし、型を覚えるというのは生きていく上でとても大切です。なぜなら、知的障害のある児童生徒は社会的弱者だからです。

A という生徒は、軽い知的障害で能力が高く、大抵のことは自分でできる生徒でした。B という生徒は重い知的障害でほとんどの日常生活で、人の手を借りないといけない状態でした。A さんは、いくら教えてもわざと挨拶をしない生徒で、女の人を見ると「おばはん」と言うのです。B さんは誰と会っても丁寧に頭を下げて「こんにちは」と、型にはまった挨拶をしました。この 2 人のうち、周りの人から大切にされる人生を歩みそうなのは、B さんです。

障害のあるなしにかかわらず、人は誰も一人で生きていけません。周りの人の力を借りて生きています。人が社会の中で生きていくとき、挨拶や礼儀は自分を守る盾になり、鎧になるのです。挨拶や礼儀正しさが、よけいなトラブルを避け、味方を増やし自分を守ってくれるのです。

社会で身を守る盾や鎧が必要なのは、特に社会的弱者においてです。若いみなさんは社会的には弱者です。他人とのよけいなトラブルを避けたいなら、まず礼儀正しく型にはまった言動をとっておくことが得策です。

挨拶だけではありません。例えば、みなさんが就職試験で面接を受けたとします。面接の部屋に入るとき 2 回ノックをしました。それで不合格になってしまうことがあります。ノック 2 回はトイレのノックだからです。部屋に入るときノックは 3 回以上することがきまりです。しかし、その決まりを知らないと、みなさんがどれほど優秀であっても、内面を見てもらえるまではいかないのです。だから、職員室の入り口にノックを 3 回と書いてあります。社会の規範を覚えた上で、そこからが内面の勝負になります。

ですから自分の盾や鎧になるものと思って、挨拶や規範を身につけてください。

そうして、自分の身を守りながら力をつけた上で、くだらない規範を少しずつ変えて、もっと生きやすい社会を皆さん自身の手で創ってほしいと思います。